



寂しさもあり、嬉しさもあり

南帷子小学校長

堀田 誠

あっという間に、一年が過ぎようとしています。先日お迎えに見えたお母さんと話す機会がありました。無邪気に走り回る我が子を見て「本当にいつも…」と嘆いていました。「いや、この一年で本当に成長しましたよ」と返すと、「どこが？」と不思議そうでした。「この一年で本当に我慢することができるようになりましたよ。嫌なこと、苦手なことでも我慢して頑張ることができるようになりましたよ。」と話すと、「家では…」と謙遜されていました。毎日、食事の世話、宿題の声かけ・見届け、次の日の用意、風呂・寝かしつけなど、子どもが寝静まるまで慌ただしい毎日を送って



白梅が咲いています。

みえるお母さんなので、冷静に我が子の成長を確かめる余裕などないかもしれません。褒めようと思うと、兄弟喧嘩をしたり、我儘を言ったりと、つい怒れてしまうことばかりの毎日だと思います。体が大きくなったことさえ気付く余裕がないのが親さんなのかもしれません。この一年、1年生の給食のお手伝いしました。最初の頃は、ほとんどを教員がやらなければならなかったことも、今では、ほとんどが子どもの力で準備ができるようになりました。最初の慌ただしかった時は、それはそれで充実感がありました。意気を感じて働いている子どもを見ていると、邪魔するのも気が引けるので、今は、ちょっとお手伝いをする程度で、あまり動く必要はありません。そこにはどことなく寂しさを感じます。それは手を離れていくという気持ちからでしょうか。それと同時に、「子どもたちの成長と言うのはすごいなあ」と子どもの成長ぶりを嬉しく感じます。

さて、3月23日には、卒業証書授与式が挙行されます。保護者さんにとっては、6年前の4月に真新しいランドセルを背負って入学した記憶が蘇り、そして、走馬灯のごとく数々の出来事が思い出されるでしょう。体も大きくなり、また、心も立派になった姿を見て、きっと感慨深く我が子を見ることができるようでしょう。6年前に、色鉛筆一本一本に記名したり、ランドセルの中身を何回も確認したりするなど、何かと手をかけた頃と比べると、段々と親から手を離れる寂しさはありますが、この6年間の成長を嬉しく感じる瞬間だと思います。担任の呼名に対して大きな声で「はい！」と返事をしたり、背筋を伸ばして凛とした態度で証書を受け取ったりと、素敵な卒業証書授与式となることを願っています。

○お知らせ

来年度から春里小、南帷子小、西可児中の3校で西可児中学校区運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクール(以下CS)として動き出します。CSとは、学校運営や学校課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できる仕組みのことです。地域、家庭、学校が手をとり合ってよりよい学校づくり、地域づくりをめざしていくこととなります。CSのメリット・魅力は、職員の異動があっても、地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」であること、地域、家庭、学校が教育に関わる「目標・ビジョンを共有」できるということ、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識をもち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができるということです。具体的な取組については、協議会で熟議を重ね来年度以降提案をさせていただきます。ご理解・ご協力よろしくお願いたします。